

# H24年度STBJ重点活動

## <事業概略>

- ・ 世界結核計画2006-2015の推進;アクションプランに基づいたACSM活動を引き続き、活動の基本とする。
- ・ ハイリスクグループ(高齢者、合併症、潜在結核、外国人、医療関係者、等)に焦点をあて、患者、その他ステークホルダーに対しての啓発活動、提言活動を行う。関西地区に関して、ストップ結核パートナーシップ関西の設立支援を行う。
- ・ STBPとの繋がりを強化する。

## <重点活動>

- ① インドネシア伝統的影絵(ワヤン)を活用した啓発活動
- ② 高齢者に対する提言・啓発活動
- ③ 合併症に対する提言・啓発活動
- ④ 潜在性結核に対する提言・啓発活動
- ⑤ 外国人結核に対する提言・啓発活動
- ⑥ ストップ結核関西設立支援
- ⑦ 日本の新しい技術を活かした国外結核対策の推進
- ⑧ 途上国の結核対策プロジェクトに従事する日本人医療協力要員の養成支援
- ⑨ 法人としての基盤整理

## ① インドネシア伝統的影絵(ワヤン)を活用した啓発活動

(定款3: 国内外結核対策への協力・調整)

「ワヤン」を活用したコミュニティに根ざした啓発活動を計画。  
外務省NGO補助金に申請し、現地視察調査予定(1月)。その結果をもとに  
H24年に助成に応募し、H25年度より実施を予定。

### 概要

#### ●インドネシアの伝統的影絵「ワヤン」を活用した啓発活動の概要

STBJではインドネシアの伝統的影絵「ワヤン」を活用したコミュニティに根ざした啓発活動を計画している。  
具体的な「ワヤン」の活用方法は現地視察査後に具体化する予定であるが、現在、2つの方法が考えられる。

①結核啓発用に新しくストーリーを作成し上演する。

②既存の「ワヤン」が演じられる前の遊び部分(ゴロゴロ)において、テレビのコマーシャル的な情報として道化人形に結核情報を語ってもらう、等が考えられる。

今後実際に「ワヤン」の啓発活動が実施に繋がった場合、その有効性が認められれば、

「シナリオ」と「プログラム」を啓発パッケージとして洗練させ、現地で啓発活動を実施する団体に対し継続的な啓発のツールとなることを目標とする。

「ワヤン」を啓発ツールとして活用する理由は、以下の通りである。

- ・「ワヤン」がインドネシア(特にジャワ島)文化、生活、思考様式に根ざしていること
- ・ダラン(人形遣い、進行役)の人々への影響力が大きいこと。
  - ①②参照『ジャワ人の思考様式』 マルバグン・ハルジョウイロゴ 1983)
- ・識字率に影響されない。
- ・エンターテインメント性(伝えづらいメッセージも楽しく伝えることができる)

一般的に、保健衛生の啓発に関しては、個別アプローチと、集団アプローチがあり、とくに後者に関しては、教室方式が主流となるが、対象者の募集、理解を促す方法、評価など様々な工夫がされている。

日本においては、結核以外にも、母子保健や、栄養改善のほか、多くの分野で、実践され、

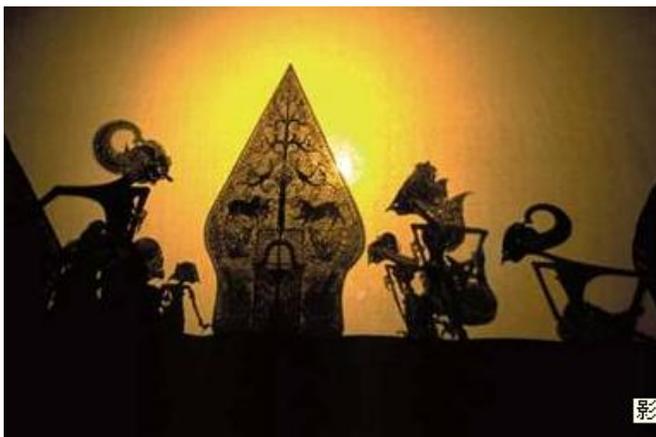
長年にわたる健康教育に関する蓄積がある。特に理解度を高めるために、単なる印刷物と、講演によるものに加え、

娯楽的な要素を入れたものによって、関心の維持、学習のレベルの向上を図ることに有効であることが経験されている。

例えば、人形劇により、かなり高度の医学的な知識の習得、理解を高めうる。これは、説明者が直接話をするより、

人形に話させることにより、専門的な情報の心理的な敷居を低くして、受け入れをしやすくすることとして理解されている。

今回、伝統芸能を媒介に、結核の知識の普及を行うプログラムに着目し、その効果を評価する調査を計画した。

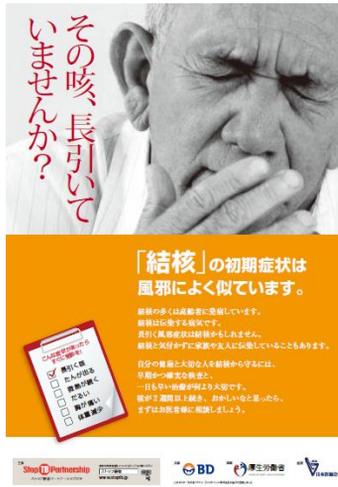
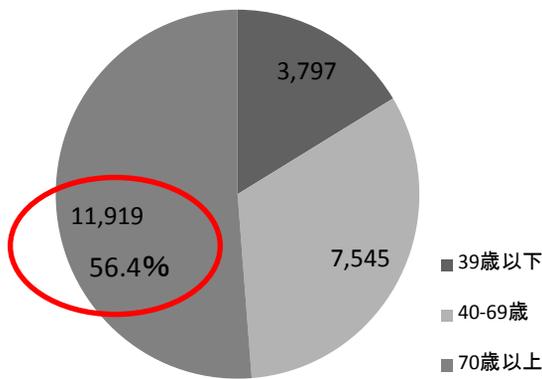


## ② 高齢者に対する提言・啓発活動

(定款1: 一般国民、専門家への啓発)

70歳以上の高齢者結核患者は、新規登録者の半数以上を占め、さらに増加傾向にある。高齢者とその家族、また医療関係者に向けて、病院、保健所、高齢者施設、教習所(高齢者講習)を中心に、ポスターや、チラシなどを活用し啓発活動を引き続き行う。ポスターはH23年と同様のものを使用し、チラシは、より情報を盛り込んだものに改訂をする。

H22年新規結核患者数内訳



## H23活動

堺市 結核啓発に採用

ポスター: 保健所7000枚 病院8000枚

チラシ: 保健所2500 教習所9000枚



堺市 中 保健センター



新宿区 ヘルスケアスクエア・ラボラトリー



上尾市 上尾中央総合病院



葛飾区 平成立石病院



堺市 保健センター4



市川市 大村病院



## ④ 潜在性結核に対する提言・啓発活動

(定款1: 一般国民、専門家への啓発)

LTBI治療数の1割程度の患者数が、翌年減少することが推定される。

学会などでの発表などを通して、潜在性結核治療(LTBI)対策の医療従事者に対して、理解促進、提言活動を行う。

接触者、医療従事者(特に看護師)、高蔓延国から帰国者に対して、潜在性結核の早期発見(QFT検査の推進)と早期治療の推進を働きかける。

### H23活動

#### 公衆衛生学会での発表

Stop TB Partnership

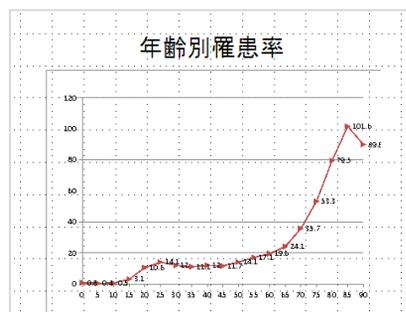
潜在結核治療の実態と管理目標

70回公衆衛生学会  
ストップ結核パートナーシップ日本  
田中慶司

LTBI潜在性結核感染症  
%は新患者数に対するもの。 LP比

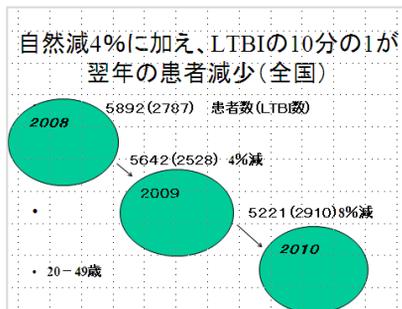
• 2007	2959人	11.7%	0.12
• 2008	4832人	19.5%	0.2
• 2009	4119人	16.8%	0.17
• 2010	4930人	21.2%	0.21

男2206人  
女2724人



考察1

- LTBI対策の効果として、LTBI治療数の1割程度患者発生を抑制
- 初感染の16%が翌年発病(千葉保之)  
- LTBI治療の効果が70%として、LTBIの1割は翌年の患者が減少する計算



考察2

- なぜLTBI対策が進まないのか
- 医療関係者の理解
- 患者の協力?
- 行政の熱意
- 予算措置
- 管理指標として認知

LTBIを結核対策の柱に

- 20歳から50歳未満の年齢層に、
- 最低でも患者数の2倍のLTBIを治療
- 初感染者対策の徹底が翌年度の患者数を減少させ、20-30年後の制圧につながる

看護師のLTBI

- 300人の患者の後ろに最少1500人のLTBI
- 一番無理解なのは医療関係者

結論

LTBI治療の数の1割程度の患者数が翌年減少することが実際の統計から推定された

## ⑤ 外国人結核に対する提言・啓発活動

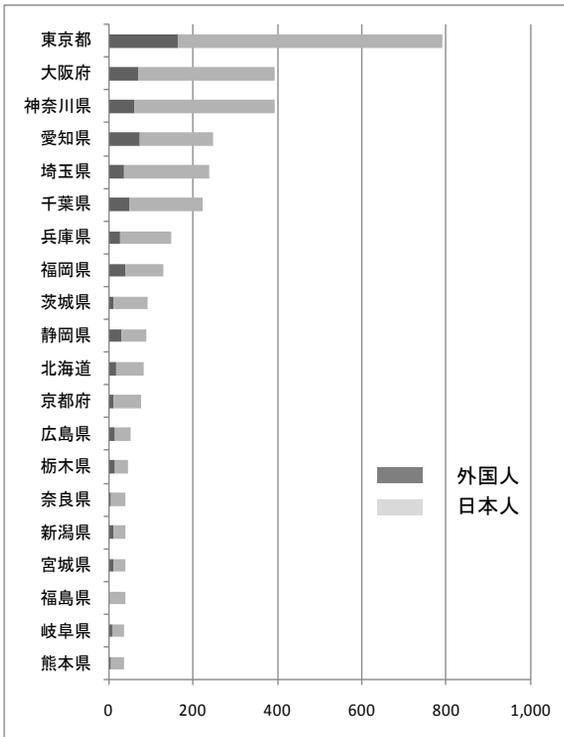
(定款1: 一般国民、専門家への啓発)

全新登録結核患者数のうち4.1%が、外国人。特に20歳代の新登録結核患者のうち、外国国籍の患者数は29%に達している。

結核の知識や外国人結核電話相談の案内等の情報を入れ込んだパンフレットを作成し、保健所、日本語学校を中心に、配布するなど、啓発活動を行う。

### 参考

上位20都道府県新規結核患者数(39歳未満 外国人+日本人)



	39歳未満患者 (合計)		39歳未満患者 (外国人)		39歳未満患者 (日本人)	
	実数	%	実数	%	実数	%
全国	3,797	20	777	20	3,020	80
東京都	792	21	164	21	628	79
大阪府	393	18	71	18	322	82
神奈川県	392	16	62	16	330	84
愛知県	246	29	72	29	174	71
埼玉県	239	15	36	15	203	85
千葉県	223	22	50	22	173	78
兵庫県	147	18	26	18	121	82
福岡県	129	30	39	30	90	70
茨城県	92	13	12	13	80	87
静岡県	88	34	30	34	58	66
北海道	84	19	16	19	68	81
京都府	75	15	11	15	64	85
広島県	52	29	15	29	37	71
栃木県	45	31	14	31	31	69
奈良県	40	15	6	15	34	85
宮城県	39	26	10	26	29	74
新潟県	39	26	10	26	29	74
福島県	39	3	1	3	38	97
岐阜県	36	25	9	25	27	75
熊本県	36	17	6	17	30	83

### <外国国籍者の状況>

- ・新登録患者(23,261人)中、外国国籍 952人(4.1%) 割合は前年より0.2.上昇
- ・最も多い年齢20~29歳 438人(28.5%) 割合は前年より3.4上昇
- ・外国国籍患者中5年以内入国者 574人(60.3%)
- ・外国国籍患者中5年以内入国者 20~29歳中5年以内入国者 367人(83.8%)

(参考: 結核の統計2011)

## ⑥ ストップ結核関西設立支援

(定款1: 一般国民、専門家への啓発)

(定款2: 会員、諸団体間での会議、事業等による交流を促進)

ストップ結核関西設立の支援を行う。

関西地域は、結核罹患率が全国一高いだけでなく、結核罹患率の高いアジア諸国と交流が活発な地域。また、今後はこれまでのような全国一律の、都道府県・指定都市・中核都市単位での結核対策体制を維持していくことが難しくなっていく中、結核患者の集中する地区を持つ関西地区の関係者、NGOが緊密な連携と協働で、結核対策を進める必要性が増している。

### H23活動

#### 国際シンポジウム ～世界から関西の結核を考える～

国際的な結核対策のパートナーシップ戦略から、関西地区のこれからの結核対策のあり方を考える。

主催: STBJ、関西大学社会安全学部

協賛: 日本リザルツ 後援: 外務省、厚生省、大阪府、大阪市、財団法人大阪公衆衛生協会、結核予防会大阪府支部、STB関西



### 国際シンポジウム ～ 世界から関西の結核を考える ～

関西地域は結核罹患率が全国一高いだけでなく、結核罹患率の高いアジア諸国と交流が活発であり、今後の関西地域の結核対策は世界的視点に立って進めていくことが必要になっていくものと見られます。そこで、海外から結核対策の最新動向を学ぶシンポジウムを開催し、世界の視点から関西地域の結核対策のあり方を考えてみる機会としたいと考えています。世界の結核対策の潮流は、いまやDOTS戦略とあわせて、政治、行政、医療機関、民間団体、研究機関に属する人々と市民が協働し、パートナーシップ戦略に集結されてきています。結核対策のパートナーシップ戦略は、結核のみならず公衆衛生領域の様々な課題解決方策としての転換としての大きな可能性を秘めています。この各種転換について考えたいと考えています。

#### プログラム

9:00-9:15 開会のあいさつ 東島昭雄(関西大学・社会安全学部・教授)

**第1部 世界の結核**

9:15-10:05 講演1: WHOの結核政策とストップ結核(パートナーシップ)戦略  
Dr. Jacob Kumaresan (WHO結核関係センター所長、WKC)

10:05-10:55 講演2: WHOストップ結核(パートナーシップ)の現状と課題  
Ms. Bheesha Kumar (ストップ結核(パートナーシップ)副議長)

11:00-11:50 講演3: フィリピンにおける結核転換の取り組みと課題  
Dr. Roderick Poblete (結核予防会フィリピン事務所所長)

12:00-13:30 昼食 (1層のレストランが利用できます)

13:30-14:20 講演4: 米国の都市における結核対策の現状とそのプログラム  
Dr. Paula Fujiwara (国際結核予防会連合)

**第2部 関西の結核**

14:30-14:50 報告1: 和歌山県の結核罹患率と結核対策の現状と今後の課題  
藤田 達彦 (国立和歌山保健福祉大学助教授)

14:50-15:10 報告2: 兵庫県における結核罹患率と結核対策の現状と今後の課題  
田所 昌也 (兵庫県健康福祉部健康増進課課長)

15:10-15:30 報告3: 大阪市の結核罹患率と結核対策の現状と今後の課題  
松本 肇二 (大阪市保健所感染症対策課)

15:30-15:50 (休 憩)

15:50-16:10 報告4: 奈良県地域の結核対策の現状と課題  
岸野 武寛 (NPOヘルスサポート大阪・事務局長)

16:10-16:30 報告5: 地域の結核対策と結核患者のサーベイランスの現状と課題  
田島 直貴 (大阪府立公衆衛生学研究所感染症制御課課長)

16:30-16:50 報告6: 平賀保健所管内における外国人の結核の対策  
大野 啓子 (滋賀県平賀健康福祉事務所健康増進課主任保健師)

16:50-17:00 コメント: 関西地域における結核対策への期待  
高山 悠洋 (大阪府保健衛生部部長)

17:00-17:30 総合討論・閉会のあいさつ 下内 明 (財団法人結核予防会結核研究所所長)

---

**主催** 平成23年1月15日(土) 9:00～17:30(開場8:30) **参加費** 無料

**会場** 関西大学 高槻ミューズキャンパス ミューズホール **お問い合わせ** ストップ結核(パートナーシップ)日本 TEL:05-5282-3010

〒595-1098 大阪府高槻市白梅町7-1 **関西大学社会安全学部** TEL:072-4864-4179 (FAX:072-4864-4000) **協賛** 日本リザルツ 後援: 外務省、厚生労働省、大阪府、大阪市、財団法人大阪公衆衛生協会、財団法人結核予防会大阪府支部、STB関西 **e-mail** t\_sato@kansai-u.ac.jp

**主催: ストップ結核パートナーシップ日本・関西大学社会安全学部**

協賛: 日本リザルツ 後援: 外務省、厚生労働省、大阪府、大阪市、財団法人大阪公衆衛生協会、財団法人結核予防会大阪府支部、STB関西

## ⑦ 日本の新しい技術を活かした国外結核対策の推進

(定款3: 国内外結核対策への協力・調整)

診断体制の強化、すなわち検査施設の拡充、専門的な知識を必要としない革新的な検査の導入や、保健システムの強化が、世界結核計画2011-2015では、強調されている。

・アクションプランの〈結核菌検査体制の向上〉部分に、「診断体制の強化」を具体的に反映する。「結核菌検査体制整備プロジェクト」の対象として、結核菌検査技術(LAMP法?)と胸部X線撮影を入れ込む。

・より有効に基金が使用されるよう「耐性結核新薬開発基金」(H21設立)を見直す。

### H23活動

#### 「耐性結核新薬開発基金」

##### Shanghai Pulmonary Hospital医師2名のアメリカ(デンバー)での研修派遣

###### ・概要

Shanghai Pulmonary Hospitalの医師2名の研修

###### ・申請団体

Shanghai Pulmonary Hospital  
(大塚製薬 推薦)

###### ・研修

主催: National Jewish Health  
研修名: The Denver TB Course  
場所: アメリカ デンバー

###### ・目的

結核治療に関する最新の国際基準の習得による、臨床試験の質の向上

###### ・期間

2011年4/13～4/16

###### ・助成申請対象

2(治験スタッフ、病院関係者等へのICH-GCPIに基づいた研修)に該当



## ⑧ 途上国の結核対策プロジェクトに従事する日本人医療協力要員の養成支援

(定款5: 国際貢献のための拠点強化・人材育成)

結核対策プロジェクトで派遣される海外協力隊の人数は、エイズ、ポリオと比較し、少ない。協力隊の派遣は、現地からの要請に基づき、募集され派遣が決定する。

- ・現地NGO等に、結核対策プロジェクトに対する医療協力要員の要請を積極的に求めるように働きかける。

- ・JICA等の国際協力案件の現地担当者に、結核プロジェクトに対する派遣の検討を依頼する。

- ・派遣隊員に対して、結核予防に関する教育を行うことを働きかける。

### 参考

青年海外協力隊派遣実績

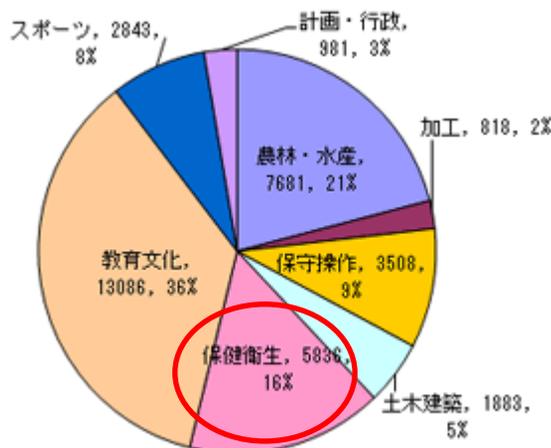


写真: 結核対策プロジェクトでの青年海外協力隊(ネパール) ©JICA

## ⑨ 法人としての基盤整理

(定款6: その他)

認定NPO法人認定を目指し、基盤整理。

寄付については、認定NPO法人認定条件として有利になる条件(\*1)をクリアすることを目標とする。

- ・STBJの広報活動の強化。リーフレットを改訂、HPの更なる充実を図る。
- ・Facebookなどを活用し、STBJの積極的なサポーター(個人会員)を増やし、HPへ誘導、アクセス数の増加を狙う。

(\*1)絶対値基準がもうけられる。(H23年度7/1からの改訂)

実績判定期間内の各事業年度中の寄附金の総額が3000円以上である寄付者の数の合計数が、年平均100人以上」となる。

### H23活動

#### STBJリーフレット

結核はみんなの問題です

結核のない世界へ

寄付のお願い

個人会員登録

結核菌に国境は?

世界では? 日本では?

HIV/AIDSとの関連性

結核菌の伝播経路

#### STBJホームページ

Stop TB Partnership

結核のない世界へ Towards a TB Free World

支援のお願い

個人会員登録

News

お知らせ

STBJ活動の紹介